

■ C-ENGINEの中長期研究インターンシップに参加するために[学生版]



C-ENGINEの研究インターンシップでは、学生のみなさんに、企業の研究現場での企業研究者との協働をとおしてトランスファラブルスキルを習得する機会を得て頂くと同時に、新たな課題解決を探る研究を体験してもらいます。

✓学生・企業がwin-winのインターンシップをめざそう

学生のWIN

院生の皆さんにとって、大学の外から自分の研究を見る視点は重要です。研究インターンシップの経験を通じて、下記の点が期待できます。

- ①企業内実践を経験することで、大学での研究意義をより明確にする
- ②研究者としての能力向上
(トランスファラブルスキル、研究シーズのマーケティング能力など)
- ③研究者としてのキャリア適性の確認
- ④中長期研究インターンシップだからこそ深まる、企業で研究職に従事することへの理解

ご自身がこの経験を通して最も得たいものは何か、明確にしましょう。

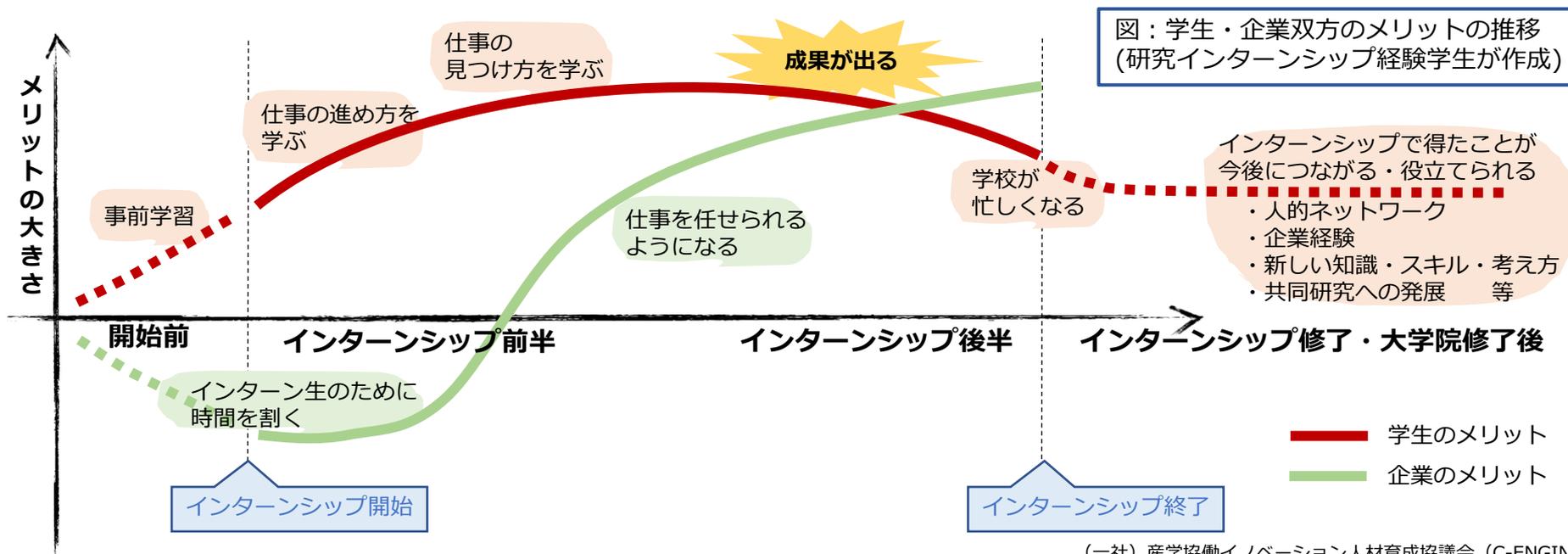
企業のWIN

企業もまた、研究インターンシップを通して以下のような期待があります

- ①学生の専門（特に基礎学問や専門外の分野）に触れ、新たな知見や発想を得る
(本流研究の加速、またはリソースを確保できない新規テーマの検討など)
- ②学生の能力・スキルを、企画・開発に活かす
(既存製品の評価・改善や、実験データの理論的裏付けのための研究など)
- ③インターンシップ受入をきっかけとした産学間交流
(インターンシップ生本人、または所属する研究室ぐるみの関係を築く機会)

ご自身の研究テーマや経験、スキルがどのように活かせるかをアピールできることが、マッチングの成立につながります。

✓研究インターンシップにおける学生・企業の、win-win関係の推移



研究インターンシップの一般的流れと 押さえておきたいポイント[学生版]



✓企業でどのような研究ができるかをイメージしよう

- ・IDMシステムに掲載中の研究インターンシップ情報（テーマ詳細、必要な背景知識・スキル、実施場所、時期・期間、待遇など）を参考に、応募したいテーマや研修先を選択してください。
- ・複数のテーマで迷っている、自分の研究テーマにあうインターンシップテーマが無いなど、悩みがある方は、**各大学にコーディネーターの先生がいらっしゃいますので、是非一度相談してみてください。**
- ・IDM上にテーマを掲載がない企業にも、大学コーディネーターを通して応募することが可能です。
- ・システム上では、掲載中テーマについて質問ができます。（IDMスタートアップガイドを参照）

✓インターンシップの経験を通して最も得たいものは何かを明確にしよう

- ・志望動機を明確にし、希望研修先を決めたら、早速応募準備にとりかかりましょう。
※※応募の際は、必ず指導教員の先生に相談し、許可を得てください！！

- ・応募後のプロセスには大学コーディネーターが関わるため、まずは大学コーディネーターにご連絡下さい。
- ・応募の方法は、①IDMでのオンライン方式、②大学コーディネーターを通したオフライン方式の二通りです。どちらの方法で応募するかについては、コーディネーターとご相談ください。
- ・応募の際には、エントリーシート（履歴書、研究概要、志望動機など）を作成し、大学コーディネーターを通して企業に提出します。
※※複数企業・複数テーマへの併願は基本的には認めておりません。
※※提出されたエントリーシートをもとに、企業内部で受入可能性を検討していただきます。
検討には1ヶ月程度の時間がかかることもあるので、時間的余裕をもって応募してください。

✓エントリーシート作成時のポイント

ご自身がこれまで習得してきた大学での専門知識やスキルが、どのような点で役立つか、応募テーマの関連性を明確にしながら、なるべく具体的に研究概要や志望動機を作成しましょう。「自分には〇〇ができる」「企業に〇〇という点で貢献できる」というようなアピールのしかたが効果的です。

- ◆企業の内部検討の結果、受入可能性がある場合、三者面談を実施します。
具体的なテーマの調整や、時期・期間の調整などもこの時におこないます。

※※受け入れ決定後、大学・企業間での契約手続きが必要（大学コーディネーターや支援部局が担当）なため、すぐにはインターンシップを開始できません（最低2週間程度は必要）

✓この事前準備期間を有効に活用しよう！

- ・インターンシップ開始時に、ガイダンス・トレーニングに占める時間を最低限にし、定めたインターンシップテーマにできる限り多くの時間を確保するため、この期間を有効に活用されることを推奨しております。
- ・事前に学習しておくべき項目の有無を企業側に確認しておきましょう。
- ・事前ガイダンスの機会を設定してもらうのも良いでしょう。

✓社員のみなさんにとことんお世話になりながら研究活動に邁進し、活躍しましょう！

◆**インターンシップ前半**：安全教育（予測と対処）、計画策定（学生の背景知識の確認）、導入教育（使用機器や実験手順）社内他部署、工場などの見学などに通常1~2週間みっちり費やします。

◆**インターンシップ後半**：社員のみなさんにとことんお世話になりながら、研究活動に邁進してください！

①1日の実験結果報告・議論 ②翌日の実験計画と危険予測に関するレポートを作成、担当者に確認いただく

※※1ヶ月ごとに進捗報告を大学コーディネーター・指導教員に提出しましょう。
(A4・1枚程度・様式自由。担当者コメントがあればベター。)

◆**インターンシップ終了時に最終報告会開催**（可能な場合、指導教員、コーディネーター、協議会事務局も参加）

※※インターンシップ後は、修了報告書を大学コーディネーターへご提出ください。